豪雨災害　日本共産党の立党の精神発揮し　被災者支援を最優先に

中国ブロック交流ニュース
発行／日本共産党国会議員団中国ブロック事務所
〒703-8288 岡山市中区赤坂本町 1-31　2018/８/3　NO.15
TEL086-273-7747　FAX086-272-7108 Email jcp-chu@mx36.tiki.ne.jp

仁比議員ら　小松泰信岡大教授と真備の農業調査
農業を続ける意欲が持てる支援を

８月３日、仁比聡平参議院議員、大平喜信前衆議院議員ら日本共産党岡山県委員会農業被害調査団は、真備町に入り、農業被害の実態を調査しました。

調査には、岡山大学大学院教授の小松泰信教授が参加しました。

調査団は、水田に瓦礫が入り込み来年の作付けの見通しが困難な水田（写真上）、巨大な水圧で破壊されたハウス（写真下）などを視察。さらに水稲農家、ピオーネ農家から直接声を聞きました。

いずれの農家も、壊滅的な被害のなかで、「80 歳になっても来年からまたコメ作りが出来るよう頑張りたい」「若い孫が後を継いでくれるよう何とか復旧したい」と語る一方で、「国や自治体は、農業を続けていく意欲が持てるような支援をしてほしい」と語っていました。

同行した小松教授は「国は被災地を切り捨てる政策で来る。これに負けず、被災前日の７月５日の日常に戻れるよう応援していきたい」と語っていました。

岡山県委員会　仁比議員の国会報告･制度の学習会を開く
真備に党の旗を立て､被災者全員の声を聞く全戸訪問を

８月３日、岡山県委員会は、「豪雨災害・被災者支援学習会」を倉敷市で開催しました。県・地区機関役員、地方議員ら 60 人が参加しました。

学習会では、仁比聡平参議院議員が、前日の参議院災害対策特別委員会での論戦を報告（３日付「赤旗」1 面に記事）するとともに、「全ての被災者一人一人に手を差し伸べ、災害前の日常の生活に戻るようにするのが党の基本的立場」と強調しました。（写真）

学習会では、国会秘書が「被災者支援制度についての考え方と仕組み」、大平さんが、４年前の土砂災害の際、広島で 2000 戸を超す全戸訪問を行った経験などを報告しました。その後、各地の取り組みが紹介され、日本共産党の立党の精神に立って奮闘することを確認しました。